

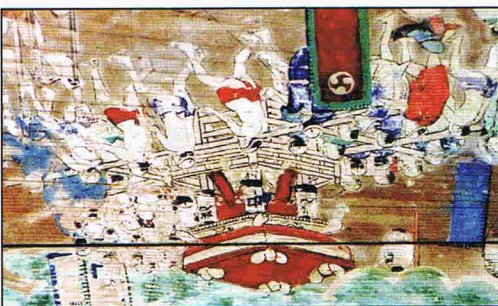
他の形の太鼓台紹介



①山口県平生町「どんでん山」  
1976(S51.10) 平天井に造花と人形



②豊敷市連島「センダイロク」  
1996(H8.10)  
棒蒲団中央に薬々の造花あり。



③兵庫県たつの市「トビサシ付屋台」富島神社総馬  
万延元年(1860)  
蒲団下に屋根がある。(姫路市・船谷宗閔氏提供)

4. 太鼓台、みんな「兄弟・仲間」

各地の太鼓台は、形態の大小や装飾規模に関係なく、多くの共通点を有していて、あたかも「兄弟・仲間」のような関係にある。ここではそれらの共通点の中でも、理解しやすい例に絞り、例示・紹介する。

(1)「掛蒲団」のルールは、荒々しい担ぎから乗り子の怪我を防止する、緩衝材や背当てが発達したものと。

(2) 荒々しい担ぎ方の一つとして、太鼓台を「横倒し」にする地方が相当数ある。(神輿の荒い担ぎ方の模倣か)

(3) 乗り子に対し、太鼓ぶちを持って、後方や斜め後ろへの「振り返り」の所作を課している地方が、かなりある。

(4) 掛声「コツアソヨ」を使う太鼓台がある。この掛声は、「ここ(この場所)で、(奉納などをしよう)の(やろう)」の意味。

(勿論、「チョウサ」「ヨイヤセ、ヨイヤサ」などは、多くの地方で一般的な掛声である)

(1)「掛蒲団」(泉蒲団)のルール

乗り子の安全確保のため、四本柱や高欄部に縛りつける地方は極めて多い。その際、太鼓台と乗り子の間に小蒲団などの緩衝材を入れて、怪我防止に努めている。やがて、それが発達し、播州の高欄掛や四国の巨大な「掛蒲団」に発展していく。



飾り物型(山口県平生町)  
「どんでん(押し山)」



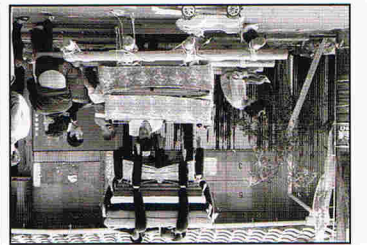
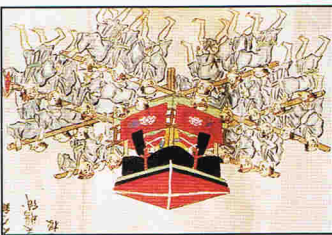
屋根型(京丹後市久美浜町)

青祭りの「日和屋台」(屋根なし)と、本祭りの「屋台」



蒲団型(加古川市・絵巻物)

「屋台」(姫路市・船谷宗閔氏提供)



蒲団型(呉市倉橋町鹿老渡)  
「だんじり」



蒲団型(西予市三瓶町朝立)  
「四ツ太鼓」



蒲団型(小豆島町池田)「太鼓(台)」



平天井型(延岡市島野浦島)  
「だんじり」